熊谷市荒川かわまちづくり協議会　規約

（目的及び設置）

第 1 条　河川空間とまちの空間が融合した魅力ある地域を創出する取組を実現するため、地域の資源である河川の活用について、今後の方向性及び具体的な手法についての検討を行うことを目的に、熊谷市荒川かわまちづくり協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組織）

第 2 条　協議会は、委員 20 人以内をもって組織とする。

２　委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

（1）学識経験者

（2）環境協会

（3）商工会議所

（4）青年会議所

（5）自治会

（6）その他市長が必要と認める者（学校、スポーツ協会、観光協会、福祉会等）

（任期）

第 3 条　委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

（会議）

第 4 条　協議会の会議は、必要に応じて市長が招集する。

２　会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

３　市長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

４　会議は、原則公開とする。ただし、会議を公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障があると市長が認めるときは、非公開とする。

（会長及び副会長）

第 5 条　協議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選により定める。

２　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（部会）

第 6 条　協議会は、第 1 条に掲げる目的に関する事項を専門的に調査・検討するため、必要に応じて部会を置くことができる。

２　部会は、委員のうちから会長が任命した者をもって組織する。

３　部会に、部会長を置く。

４　部会長は、部会員の互選により選出する。

５　部会長は、部会を代表し、部会の事務を総理する。
６　部会の会議は、会長が招集する。
７　部会は、会長の承認を得て解散することができる。

（守秘義務）

第 7 条　会員は、協議会を通して知り得た情報及び機密情報について各々の責任において管理し、第三者に漏洩してはならず、協議会を退会した後も同様とする。ただし、協議会が認めた場合、またはその情報及び機密情報が公表されたとき以降は、この限りでない。

（庶務）

第 8 条　協議会の庶務は、建設部河川課が処理する。

（その他）

第 9 条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

この規約は、令和 6 年 5 月 28 日から施行する。

別紙　1

論点1　方針

凡例　賛同意見または事務局案で網羅されている意見　／　方針に反映した意見　／　方針に対する懸念意見　／　その他質問意見や別の論点で検討する意見

			論点1	論点2、3、4	
WS	基本方針には賛成	共通	基本方針　賛同		
WS	大旨賛同です				
WS	方針1-1、2、3　2-1、2　賛成				
WS	方針賛成OK　水辺の公園希望		基本方針　賛同　整備方針1-1水辺の魅力	③水辺の憩いゾーンに「親水」を記載 ④水辺の公園の整備を検討	
WS	賛同 自然環境を一番にしてほしい		基本方針　賛同 自然環境重視 整備方針の順番について要調整		
WS	方針の懸念意見 「開発（変更）有りきは危険。変更が必要な点は改善時。残すべきは手を加えない方が良い」		懸念　方針1-3で考慮。整備方針の順番について要調整。		
WS	方針の懸念 開発の方向性が心配。河川課のつつみ上のアズマ屋とか考え方が？心配		懸念　論点４の検討において整備方針2-1を踏まえ河川管理者と調整しながら検討を進める	③整備方針2-1を踏まえ河川管理者と調整しながら検討を進める	
WS	対象範囲として対岸も検討してほしい(旧大里村 江南町) ex, 駐車場他休憩所等		懸念　論点２において整備範囲の追加を検討	②範囲を対岸まで広げるか検討	
協議会	時間軸として、魅力を継続的につなげているかというチェックはされているか。		魅力の継続の方法		継続的な魅力づくりあり方の検討
WS	いろいろな世代、人が住みやすいまちになる事に期待	基本方針1 整備方針1-1	整備方針1-1　多様な世代 基本方針1　愛着と誇り		住みやすいまちとは何か検討
協議会	オンリーワン、ナンバーワンとしての魅力づくり。		整備方針1-1 熊谷らしさ		
協議会	水辺の魅力の充実。　例：釣り・涼 下流区間は川と護岸の間が整備されていない。		整備方針1-1 水辺の魅力	③水辺の憩いゾーンに「水辺の魅力」を記載 ④釣りを検討	【回答】
WS	川であそべる形になるような方針が良い		整備方針1-1 水辺の魅力	③水辺の憩いゾーンに「親水」を記載 ④親水護岸等の整備を検討	
WS	せっかくの河なので親水整備してほしい		整備方針1-1 水辺の魅力	③水辺の憩いゾーンに「親水」を記載 ④親水護岸等の整備を検討	
WS	市民プールがなくなった 親水公園的な物はよいのではないか		整備方針1-1 水辺の魅力	③水辺の憩いゾーンに「親水」を記載 ④親水護岸等の整備を検討	
WS	多目的に多世代が活用されるエリアになることを期待！		整備方針1-1 多様な世代		【回答】
WS	多世代が交流できる空間の創出（公園等）		整備方針1-1 多様な世代	④公園等の整備を検討	
WS	子供たちが川遊びできるような環境整備をしてほしい		整備方針1-1に「子ども」を追加	③水辺の憩いゾーンに「親水」を記載 ④親水護岸等の整備を検討	
協議会	現状である程度は魅力として存在するものとこの取り組みで「創生」されるものが区別できると良い。		整備方針1-1　熊谷らしさを活かす		整備メニューで現状の魅力と新たに創出するものを区別する
WS	熊谷らしさの４点は、理想であり荒川河川には求めるのは困難と感じる		懸念　論点４の検討において「熊谷らしさ」への対応の具体化を検討する。	④熊谷らしさに対応する整備を具体化	
WS	整備方針1-1　熊谷らしさ、つながり河川敷内で作れるものに制限がある。		懸念　同上	④熊谷らしさに対応する整備を具体化	
WS	高齢者や障害のある方も気軽に利用できる環境への配慮	整備方針1-2	整備方針1-2 誰もが	④バリアフリーに対応した整備を検討	
WS	整備方針1-2　地域振興、健康づくり 体育館や現況のスポーツ施設を含めスポーツ目的の利用者が多いため		整備方針1-2 賛同		
協議会	荒川公園周辺再整備計画との連携の具体策がほしい。 連携を考えると体育館は5年以降。 例えば駐車場の整備など具体の項目を示しながら。		整備方針1-2に「周辺まちづくり計画との連携」を追加		基本計画や計画の位置づけに「熊谷駅南口周辺再整備計画（検討中）」を追加
協議会	市民体育館周辺整備との関わり方連携等。		整備方針1-2に「周辺まちづくり計画との連携」を追加		基本計画や計画の位置づけに「熊谷駅南口周辺再整備計画（検討中）」を追加
協議会	南口の開発、体育館の建設と一体となってまちづくりを進めることで利便性が増す。 連携が必要。		整備方針1-2に「周辺まちづくり計画との連携」を追加		基本計画や計画の位置づけに「熊谷駅南口周辺再整備計画（検討中）」を追加
WS	方針の賛同 駅⇔体育館⇔かわまち この構想（一体として）を期待したい		整備方針1-2に「周辺まちづくり計画との連携」を追加		基本計画や計画の位置づけに「熊谷駅南口周辺再整備計画（検討中）」を追加
WS	熊谷駅南口から体育館荒川公園と共ににぎわい創出を考えかわまちに対して、歩道整備をしてほしい		整備方針1-2に「周辺まちづくり計画との連携」「動線（つながり）」を追加		熊谷駅から河川敷までの歩道の整備を検討（かわまちで行うか等）
WS	文化的な（コンサート利用）利用も配慮されたい。（機材の管理も含めて）		今後、論点４において検討	④コンサート利用の整備を検討	
WS	駅から土手は住宅街であり、静かな環境であるので、賑わう事による悪化を不安に思う。		懸念　整備方針1-2に「周辺まちづくり計画との連携」を追加 論点３、論点４において、周辺住宅環境の保全を考慮	③④周辺住宅環境の保全を考慮	
WS	桜の木等の管理は引き続きしてもらいたいですが、南口は土手、荒川でせまい地区なので、体育館や必要以上の事はしてほしくないです！		懸念　同上	③④周辺住宅環境の保全を考慮	
協議会	活動ごとの動線を整理したい。今、歩行、自転車、車両の動線が重なり危険な状態。 いつ事故が起きてもおかしくない状況。 一方で良い環境（キジがいる）。		懸念　今後論点４の検討において、エリア内の動線整理（歩行者・自転車、車両）	④エリア内の動線整理（歩行者・自転車、車両）	
WS	スポーツ、健康作り…ランニングコースとサイクリングロードの住み分け、サイクリングロードの起点と終点が不明＝（曖昧？）方針1-2		懸念　今後論点3、論点4において検討	③④スポーツ利用と健康利用等、多様な利用の住み分けを検討	

論点1　方針

凡例　賛同意見または事務局案で網羅されている意見　方針に反映した意見　方針に対する懸念意見　その他質問意見や別の論点で検討する意見

			論点1	論点2、3、4	
WS	自然を活かす、環境を充実させるという方針に賛成です。	整備方針1-3	方針1-3　賛同		
協議会	方針1-3自然環境、風景の具体策について荒川緑地の範囲内において「かわまちづくり事業」の一環として自然再生整備が望ましいエリアがあります。 荒川緑地の東側、下流側の岐路について拡張時に市から相談を受け「荒川河川敷の保全と利用のあり方」の中で利用ブロックとしているが2割は自然を保全する。とあるが現状は活用されていない。 未整備の区間の自然保全、再生（在来の草はらの再生）。 4月よりかわまちづくりの中でも環境の植生の再生等、荒川の自然とふれあう場としても有効。 子供達の自然触合の場。		整備方針1-3に「創出」を追加（自然再生について、かわまちづくり計画内での実現性を考慮） 整備方針1-3 子どもたちが荒川の自然環境と触れ合える空間を充実		
WS	浸水リスク低減のため堤防の強化を是非して欲しい	整備方針2-1	整備方針2-1 堤防整備		
WS	洪水時の災害リスクを減らし、防災力を向上させる		整備方針2-1 賛同		

■計画づくりの進め方やその他ご意見

協議会	これから熊谷で育っていく子供たちのニーズも収集していくとよいのでは。	計画づくりの進め方			
協議会	参考事例はわかりやすい。ここに熊谷の強みとニーズをのせていきたい。	計画づくりの進め方			
WS	堤防の構造が変わるかも 時期的に今なのか	整備スケジュール			変更後の堤防の整備情報提示
WS	地球温暖化対策について詳しく知りたいです。	その他			地球温暖化の情報提示

別紙 2

論点2 計画範囲

凡例

賛同意見または事務局案で網羅されている意見	計画範囲に反映した意見	その他質問意見や別の論点で検討する意見

委員・参加者　記述	論点2（計画範囲）	今後の検討
範囲は、提外地では「荒川緑地」全体提内地では「荒川公園」・「体育館」のエリアは最低限加えるべきと思います。	「荒川緑地」「荒川公園」「体育館」のエリアを含む範囲で設定	
上流のソフトボール場から下流運動公園まで	ソフトボール場から下流運動公園までを含むエリアで設定	
河川敷内のエリアは適当な範囲では？	賛同意見	
ソフトボール場周辺の堤内地側の範囲はどうするか	かわまちづくりは、「かわ」で生まれた新たな交流や魅力が「まち空間」に波及することにより、地域の活性化やまちへの愛着の醸成、定住促進を目指ししています。そのため、熊谷駅南口エリアのまち（堤内地の住宅を含む）範囲を計画範囲としています。 整備メニュー（ハード・ソフト）の検討にあたり、「かわ」で生まれる新たな交流による魅力創出と周辺住宅地の住環境保全の両立に配慮します（論点3・論点4で検討）。	論点３・４で検討
住宅街を範囲に含めた理由は？	同上	論点３・４で検討
対象エリアの所有又は管理者は？	所有者は、国土交通省です。 管理者は以下の通りです。 荒川緑地、桜堤（堤内地側）：熊谷市 荒川大橋下：埼玉県 その他の河川敷地：国土交通省	
駅から歩いて（体育館周辺）いける範囲を設定すると定住促進につながるのでは。	駅から歩いて行ける概ね1ｋｍ圏内のエリアを中心に、荒川緑地や荒川の自然がより感じられる荒川大橋上流のエリアを含む範囲で設定しています。最遠で駅から概ね2ｋｍ程度となります。	
将来活用エリアはどのくらいの先の将来を見すえているのか。	時期は現時点で定まっておりません。かわまちづくり計画の効果や、地域利活用の状況のモニタリングや計画内容の見直しを行いながら、将来計画の時期、内容について検討を行います。	
コアエリアはどこか？ 赤とオレンジの違いは何か。	コアエリアは、登録後５年間で魅力向上を図るエリアとして、主に河川敷地内を対象に設定しています。 赤点線で囲むエリアは、コアエリアを含み、その効果の波及を見込むエリアとして駅南口エリアを含むエリアです。 オレンジ破線で囲むエリアは、市のまちづくり計画や地域資源、地域意見を踏まえ、将来的な活動を展開するエリアとして、設定しています。	
段階整備としてのエリア拡大。	登録後５年間での実現を見込む計画として、荒川緑地と駅南口エリアのまちを含む範囲をかわまちづくり計画エリアの魅力の充実を図ることを目指す計画としています。 効果を確認しながら、将来的には川周辺の地域資源と連携しながら駅北の中心市街地や対岸の村岡側を含む範囲にエリアへ拡大することを将来計画としています。また、久下橋や大麻生公園は荒川の水辺や堤防道路により、将来連携を図るエリアとして計画に反映しました。	
大麻生公園まで範囲を広げられないか？	同上	
開発途中の地域がある上流側 大麻生方面	同上	
【範囲】大麻生から久下まで広げた整備内容とする	同上	
むらおか側も活気あふれる計画にしてほしい	同上	
対岸も考慮した計画とする	同上	
〔対岸との往来を考慮した計画としてほしい〕	同上	
村岡緑地まで	同上	
水辺の公園が欲しい	論点３、論点４で検討します。	論点３・４で検討
遊歩道の整備	同上	論点３・５で検討
駅前の活性化へ範囲をしぼってほしい	登録後５年間での実現を見込む計画として、荒川緑地と駅南口エリアのまちを含む範囲をかわまちづくり計画エリアの魅力の充実を図ることを目指す計画としています。 効果を確認しながら、将来的には川周辺の地域資源と連携しながら駅北の中心市街地を含む範囲にエリアへ拡大することを将来計画としています。 将来エリアについては、効果のモニタリングや周辺のまちづくりの状況を踏まえ、検討を具体化します。	
〔住環境にお店が出来たりしてにぎわいが出てくると、静かで暮らしやすいまちという良さがなくなる可能性が高い〕	社会実験による試行や利用のルール等の検討により、「かわ」で生まれる新たな交流による魅力創出と周辺住宅地の住環境保全の両立を目指す計画づくりを進めます（論点3・論点4で検討）。	論点３・４で検討
歴史に関する魅力の発信。 動線はどのようになっているか。 今回は範囲まででしょうか。	舟運で栄えた歴史、治水の歴史、旧中山道や渡しなど、計画地周辺の歴史資源の魅力の発信につながるメニューを、地域意見を踏まえ検討します（論点３、論点４で検討）	論点３・４で検討
親水として良好かも（運動広場付近） 熊谷南小学校付近は水に近づける	水辺への近づきやすさや豊かな水辺の自然環境の現地状況を鑑み、熊谷南小学校付近を含む範囲を計画エリアに設定しています。論点３において当該エリアで、子供たちが荒川の自然に触れ合える自然学習ゾーンを設定しています。	
東の久下橋まで草原をそのままにするのか 【活用】自然を残した整備 〔草地をそのまま残しておいて良いのか〕 〔火事になる可能性がある〕	登録後５年間での実現を見込む計画として、荒川緑地と駅南口エリアのまちを含む範囲をかわまちづくり計画エリアの魅力の充実を図ることを目指す計画としています。 効果を確認しながら、将来的には川周辺の地域資源と連携しながら駅北の中心市街地や対岸の村岡側を含む範囲にエリアへ拡大することを将来計画としています。また、ご意見の久下橋までの区間は、将来連携を図るエリアとしております。火災のリスクについては、かわまちづくり計画と別途河川敷地の維持管理を管轄する国土交通省への対応を市より要望します。	

別紙 3

論点4 活用アイデア

凡例　スポーツ健康、地域交流、安全　自然環境保全　親水、水上スポーツ
歴史文化　アクセス・駐車場　その他

項目分類	参加者意見	意見区分
活用アイデアの意見	駐車場のルール化	駐車場
	シェルター　（９か所）	防災（河川敷外）
	ドッグランが欲しい	地域交流(ペット)
	アクセスが悪い	アクセス
	大木の日照を生かした整備（上流側）	木陰
	大木があり日影が多いので整備（いきいき広場）	木陰
	360°熊谷のけしきがたのしめる	景観
	駐車場確保のための道路拡大	アクセス
	桜木小のとこの坂路はV字型をI字型に改めるべき	アクセス
	木かげのある遊歩道	木陰
	犬のアジリティ大会	地域交流(ペット)
	スポーツ活動の送迎、見学する保護者の憩いの場	スポーツ(観戦) 地域交流(休憩)
	川遊び	親水
	桜並木をこわさないでほしい	桜並木の保全
	土手の整備	堤防
	村岡緑地　橋かけて往来できる様(散歩コースとして)	スポーツ健康(散歩)
範囲・活用アイデアの懸念意見	利用のための坂道の混雑	アクセス
	駐車台数。駐車場への登板道の改善が必要	駐車場
	カフェなど作って桜を切らない	桜並木の保全
活用アイデアの意見	小川町の？？川のようにフィッシングスポットが考えられないか？	親水(釣り)
	カヌーカヤック	水上スポーツ
	駐車場のアクセス（道路）を広げる 片側1車で直線で通れる	アクセス
	バス停	アクセス
	サイクリングロードの整備（車用・分離）	スポーツ健康(サイクリング)
	ピクニック→トイレ・手洗い	地域交流
	飯能河原のような本流から引き込んだ浅瀬で親水ができるか	親水
	手こぎボートが週末だけでも出たらいいな（荒川大橋下流は流れがゆるやかなので）	水上スポーツ
	若者たちのデートスポットになるような魅力的な場所へ期待	地域交流
	ロックフェスをしてほしい	イベント(音楽)
	マルシェ	イベント(交流)
	河川敷エリア全般的に避暑地的な休けい場所とユニバーサルデザイン的なトイレを増やす	地域交流(休憩)
範囲・活用アイデアの懸念意見	車の往来で交通事故が心配	アクセス
	周辺とのアクセスを確保して欲しい	アクセス
活用アイデアの意見	ダッシュ　河川　漁取り	親水(釣り) 自然環境保全
	川とふれあう遊歩道をこのエリア約100Mの緑地に作る 	親水 自然環境保全
	親水広場が欲しいです	親水 自然環境保全
	子育て世代が遊べる広場（特に公園）	地域交流（子ども）
	バーベキュー場を作ってほしい	地域交流(バーベキュー)
	立正大学との連携。まちなか	連携(地域)
	他プロジェクトとの連携によるまちづくり体系、作戦	連携(他計画)
	駅から堤までペデストリアンデッキでつなぐ	アクセス
	ラグビーを観覧する場所がほしい	スポーツ(観戦)
範囲・活用アイデアの懸念意見	坂路の拡張	アクセス
	坂路を拡張してほしい	アクセス
	坂路が少なく拡張してほしい	アクセス

別紙 4

堤防・河川空間利活用の方向性：スポーツ健康文化交流ゾーンの必要機能と整備メニューの検討

凡例　○：意見の有無

役割	取組内容	場所	必要な整備・施設（案）	関係者ヒアリング	協議会	ワークショップ	意見概要	今年度検討項目	次年度以降の検討項目	課題が多く困難な項目
◆地域の安全安心に寄与する	・堤防整備	堤防	・**堤防の嵩上げ、拡幅**	○		○	・堤防を拡幅して体育館とつながると良い	●完成堤防に必要な盛土、拡幅とする。		
							・土手の整備			
							・堤内地側の盛土整備による道路への影響や法崩れによる住宅への影響が心配			
							・堤防拡幅時には既設堤の在来野草を盛土表面に移植する等、環境に配慮が必要			
							・土手に盛土しないでほしい[〔・暗くなる、桜が切られちゃう、土が流れてきたら危険〕			
							・土手と公園一体化危険			
	・荒川緑地（広域避難場所）の機能充実		・**堤防坂路の整備**（緊急車両のアクセス坂路・バリアフリースロープの確保）	○			・防災イベントについて、市民体育館＋荒川緑地での開催は可能だが、荒川緑地に行くために土手を超える必要があり、ベビーカーの方の移動の負担が心配。	●		
	台風襲来時や出水後の対応（方法、体制）			○			・台風襲来時の東屋・柵・トイレの移動の対応方法、体制を決める必要がある		●	
							・出水後の河川敷の流木撤去等の復旧の体制の検討が必要			
◆地域防災力を高める地域活動を支援する空間	・地域の防災活動を行うための環境整備など（防災訓練、防災教育（災害リスクや過去の洪水、治水の歴史、流域治水に関する情報発信））	自由広場等	・防災活用に必要なオープンスペースの確保（避難スペース、ヘリポート、瓦礫置き場、雪置き場）	○	○	○	・荒川公園、体育館（建て替え）と荒川緑地の防災拠点連携の視点は重要	● ・荒川の水害に関する対策について、川辺のみでなく、避難施設も含めて検討してほしい。 ・災害時のオープンスペース機能の確保・防災拠点としての機能も重要		
							・荒川の水害に関する対策について、川辺のみでなく、避難施設も含めて検討してほしい。			
							・災害時のオープンスペース機能の確保・防災拠点としての機能も重要			
			・防災情報（災害リスク、過去の洪水、治水の歴史、流域治水等）を発信する（防災イベント等）	○			・河川の危険性を理解する場として活用できると良い	● ・市民体育館＋荒川公園で防災イベントを実施できると良い。 ・防災イベントについて、市民体育館＋荒川緑地での開催は可能だが、荒川緑地に行くために土手を超える必要があり、ベビーカーの方の移動の負担が心配。 ・市民体育館＋荒川公園の場合全体を見渡せるためイベント管理がしやすいが、荒川緑地は堤防があり見渡せないことからイベント管理がしづらい。		
							・市民体育館＋荒川公園で防災イベントを実施できると良い。			
							・防災イベントについて、市民体育館＋荒川緑地での開催は可能だが、荒川緑地に行くために土手を超える必要があり、ベビーカーの方の移動の負担が心配。			
							・市民体育館＋荒川公園の場合全体を見渡せるためイベント管理がしやすいが、荒川緑地は堤防があり見渡せないことからイベント管理がしづらい。			
			・**案内看板や洪水水位標等の設置**					●		
		堤内地	・**防災倉庫**（新市民体育館内）						● 新市民体育館との連携事項	
◆荒川の自然・風景を楽しみながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ） ◆スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間 ◆市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間	・堤防道路の利用を充実する環境整備 ・水辺、山並みの風景、桜堤の景観保全と魅力の充実 ・花火大会や桜祭りの大規模イベントの安全な利用、魅力を高める環境整備	堤防	・堤防道路の散歩等を楽しむ**休憩所**（堤防の側帯を活用した眺望・ベンチ・東屋又は緑陰、サイクルラックの整備）	○		○	・360℃熊谷の景色が楽しめる	● 河川敷地内で対応可能なものを検討		エスカレーターのような設備は河川敷地内では対応が難しい
							・遠方から人が集まる休憩拠点の充実が重要（かわまちや熊谷の地域の魅力の情報発信のメリットがある）			
							・サイクリストの休憩拠点の整備が必要（荒川サイクリングロード、秩父鉄道サイクルトレインとの連携）			
							・堤防道路を遮熱性舗装にしてほしい。			
							・天端の舗装は生物の移動の妨げになるため、野鳥の森区間では舗装を実施しない様に要望している。			
							・案内看板などに東京までの距離を記載する等、工夫があると良い。			
							・熊谷市は自転車が乗り易い平坦地で、荒川の上下流の隣接市と連携を図る上で自転車は有効な要素と考える。			
							・散歩コースとしてとても魅力があるコースであり、その魅力を知ってもらい、利用してもらいたい。			
							・ランニングコース（堤防道路、高水敷）に街灯等の夜間利用の防犯対策が必要			
							・河川敷エリア全般的に避暑地的な休けい場所とユニバーサルデザイン的なトイレを増やす[エスカレーターのような設備を作ってほしい〕			
							・土手にベンチを設置（北海道の事例）・ベンチの設置（スポーツ観戦）（花火大会（有料席））			
			・**歩行者と自転車の安全対策**（拡幅（幅員確保）、分離標示、ルール・マナーの周知活動、交通安全教室）	○		○	・堤防上の道路の自転車（スポーツバイク）と歩行者の通行空間の分離等の歩行者の安全対策が必要。	●完成堤防幅に応じて検討		
							・サイクリングロードなどの自転車利用環境等を検討するにあたっては歩行者との安全対策に留意する必要がある。			
							・サイクリングロードの整備（車用・分離）[自転車専用道路の整備（安心、安全）]			
			・大規模イベント時の安全な利用に配慮した**階段や堤防の拡幅・観覧席を兼ねる階段式護岸の整備**	○	○	○	・階段式護岸になると花火が見やすくなり良い。川側だけでなくまち側にも階段を設けないと事故の危険等が懸念される。	●階段式護岸は、懸念事項を踏まえ検討する		
							・堤防上または新体育館に体が不自由な人に配慮した観覧席やVIP用の観覧席が整備されると良い			
							・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線計画、堤防道路や階段の拡幅整備が必要			
							・現状の土堤をコンクリート製の階段護岸等の整備を実施する場合は、地域の環境団体等への説明及び代替措置の検討が必要			
							・現在の自然を残した整備にしてほしい。			
							・環境保全上は、階段護岸は避け、草地が望ましい。			
							・階段式護岸は完成堤防での整備が必要			
							・階段式護岸はスポーツ観戦できて良い			
							・活動ごとの動線を整理したい。今、歩行、自転車、車両の動線が重なり危険な状態。			
							・車の往来で交通事故が心配〔活用　車と人の動線を考えた整備〕			
							・高齢者や障害のある方も気軽に利用できる環境への配慮			
							・ラグビーを観覧する場所がほしい			
			・**熊谷桜堤の保全、継承**	○		○	・熊谷桜堤は桜百選に指定されており、最新技術を駆使し必ず残してほしい。	●		
							・桜並木は熊谷の大切な財産であり、（その保全）に配慮した計画づくりとしてほしい。			
							・堤防天端に施設を設ける等した場合、桜堤の景観が損なわれるため、桜堤に影響するような整備は反対である。			
							・桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。			
							・菜の花がコロナ禍で斜面に広がり、花見をする場所を確保しづらい状況となっているため、場所を確保できるようにしてほしい。			
							・桜並木をこわさないでほしい			
							・カフェなど作って桜を切らない			
		堤内地	・**休憩拠点・情報発信拠点・管理棟**（広場、キッチンカー設置スペースやカフェ（堤防と新市民体育館と連携）の整備）	○			・土手に安全できれいなトイレのある飲食店が整備されると良い		● 新市民体育館との連携事項	
							・遠方から人が集まる休憩拠点の充実が重要（かわまちや熊谷の地域の魅力の情報発信のメリットがある）（再掲）			
							・まちおこしを目指し、人が集まる場所にするためには、若者が気軽に立ち寄れる場所や、行きたいなと思うランドマークなどがあると良い（荒川を望むオープンカフェ等）			

堤防・河川空間利活用の方向性：スポーツ健康文化交流ゾーンの必要機能と整備メニューの検討

凡例　○：意見の有無

役割	取組内容	場所	必要な整備・施設（案）	関係者ヒアリング	協議会	ワークショップ	意見概要	今年度検討項目	次年度以降の検討項目	課題が多く困難な項目
◆荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ） ◆スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間 ◆市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間	・高水敷の利用を充実する環境整備（アクセス、休憩や駐車施設、スポーツやイベント観覧施設の充実）	自由広場 グランド等	・自動車アクセスの向上（**堤防坂路の整備（自動車利用の安全性向上）、駐車場の機能の充実）**	○	○	○	・河川敷地の駐車場の駐車容量の拡充	● 懸念事項を踏まえ検討する		
							・駐車場確保のための道路拡大			
							・駐車場整備による夏場の暑さが増すことへの懸念			
							・駐車場の規模・位置			
							・アクセスが悪い〔・もう1つ明確な坂路があるとよい、坂路の入口に標識をつくる、新しく坂路を作る際はスムーズに出入りできるように〕			
							・桜木小のとこの坂路はV字型をI字型に改めるべき〔・V字の坂路が大変〕			
							・利用のための坂道の混雑〔見晴町側の坂路は管理されておらず（常に開放）、混雑している、桜祭りの時、桜木小側の駐車場が有料だからと、見晴側から入る人がいて機能していない、桜木町側の斜路が狭い、〕			
							・駐車場のアクセス（道路）を広げる片側1車で直線で通れる(駐車場も整備)			
							・坂路の拡張〔・駐車場を整備する上でも坂路を拡張しない、・バスが交互通行ができない。改善しないともったいない。〕 〔・河川敷駐車場は雨の日に利用すると泥だらけになる〕			
							・坂路が少なく拡張してほしい			
							・駐車場のルール化〔駐車場のアクセス（一方通行・ルール、駐車場一方通行→スピードを出す人が増えて危険 →段を設ける、イベント時やスポーツ利用時の駐車場有料化、）			
							・駐車台数。駐車場への登板道の改善が必要〔・体育館の駐車場は狭く、バスが駐車するとさらに駐車出来る台数が減る〕			
							・駐車場整備〔・駐車場を河川敷に設置（体育館）、駐車場がないと多くの人が集まれない〔・レンタサイクルでアクセスする方法もある〕・管理を柔軟に運用できないと、せっかくの駐車場施設もうまく機能しない。〕			
							・車の往来で交通事故が心配　［活用　車と人の動線を考えた整備］			
							・簡単に車が入れると環境破壊につながる恐れがある。			
			・**トイレやベンチ（緑陰、東屋）、サイクルラック、バリアフリースロープの整備**	○	○	○	・遠方からの来訪者のための駐車場へのアクセス路の整備やトイレがあると利用しやすい。	●		
							・体の不自由な人等がボッチャなどのスポーツができる環境づくり、指導者の育成が必要			
							・スポーツ以外を含め、イベント需要を把握し、必要な設備を考慮する必要がある。			
							・高齢者の方々が安心して歩ける道路、階段（手すり付き）、スロープを設置してほしい。			
							・バリアフリーに対応したスロープがあると車椅子でアクセスがしやすくなる。			
							・現状の河川敷内への坂路は遠く、坂路の勾配が急で、車椅子では移動が困難。			
							・スロープは、目的地に遠回りとならないような位置に配置が必要（高齢者利用、車椅子利用、ベビーカー利用等）			
							・体が不自由な方や高齢者のアクセス利便の向上、楽しむ施設の充実が必要			
							・堤防から水辺までの連続したアクセスしやすさを考える必要がある。			
							・河川敷地内の高木の木陰を活かした涼める場所を作ったらどうか。			
							・自転車が安全に利用できる緩勾配の坂路があると良い			
							・河川敷にある車いすトイレは（他の地域）防犯の観点からカギがかかっている事が多いので、何か対策を。			
							・河川敷までの動線も土手を下った所もデコボコ段差があったり、駐車場も大きな穴だらけだったので車いす、ベビーカー、足の不自由な人が使いにくいので出来ることから改善してほしい。			
							・暑さについての対策は必要。夏場は20分もいられないです			
							・暑い街熊谷、日影を作るための植栽は可能か。休憩用のベンチの設置は可能か？			
							・全体的に日影が増えて過ごしやすくなって欲しいです。			
							・河川敷エリア全般的に避暑地的な休けい場所とユニバーサルデザイン的なトイレを増やす[エスカレーターのような設備を作ってほしい]（再掲）			
							・大木の日照を活かした整備（上流側）〔・犬の散歩やスポーツ利用者の保護者が利用〕（再掲）			
			・スポーツ施設の充実	○			・スケートボード、フットサル、テニスコートの整備		●	
							・参考事例　千代田地区のようなスケートボードパークの整備は可能か？			
							・歴史あるラグビー場であり、ラグビー協会からどちらも残してほしいと要望があった。			
							・ラグビー場のあり方は、荒川堤防の将来計画を踏まえる必要がある			
			・ドッグラン	○		○	・河川敷にドッグランがあると良い	●		
							・ドッグランが欲しい〔・ドッグランは熊谷にはない・犬を放している人がいる・ドッグランと駐車場の併用〕			
			・子供の遊び場の充実、多世代交流空間の充実	○		○	・河川敷内に付いては遊具などのセットを置くのか。	●		
							・小さな子供が遊べる遊具があると良い			
							・子どもの遊ぶ空間とスポーツをする空間を分けると良い。直射日光対策（屋根）があると良い			
							・まち中の大きな公園として、子供イベント広場のような空間があると良い（ニーズがある）			
							・夏場水辺で親子連れが自然と遊べる空間ができると良い（小さな川、噴水、プール等の水遊びができる公園）			
							・子供が安心して使えるしっかりとしたトイレがあると良い。			
							・ベビーカー等で徒歩で移動する主婦層が利用する広場を駅から近い配置にすると良い			
							・公園遊具の充実〔・小学生の遊ぶ場所、遊具がない（荒川公園）〕			
							・子育て世代が遊べる広場（特に公園）[子供がふれあえる親水スペースを整備してほしい、子育てしている世帯を考慮し、子供と触れ合える 親水公園のようなスペースがあると良い。　今の荒川は川の流れが速く遊べない。]			
							・スポーツ活動の送迎、見学する保護者の憩いの場　［大会利用者、保護者の休憩場所（キッチンカー、カフェ）］			
							・多世代が交流できる空間の創出（公園等）			
							・ピクニック→トイレ・手洗い[ピクニックができる施設、場所としてほしい]			

堤防・河川空間利活用の方向性：スポーツ健康文化交流ゾーンの必要機能と整備メニューの検討

凡例　○：意見の有無

役割	取組内容	場所	必要な整備・施設（案）	関係者ヒアリング	協議会	ワークショップ	意見概要	今年度検討項目	次年度以降の検討項目	課題が多く困難な項目
	魅力の充実		・来訪の魅力づくり（四季の彩り、若者が訪れたくなる）	○		○	・桜の季節以外に咲く花を植えたらどうか	●		
							・若者たちのデートスポットになるような魅力的な場所へ期待[高水敷をデートに利用できるスポットにしてほしい]			
							・桜祭り、花火以外に河川敷に来る機会がないのでイベントやスポーツ以外に訪れたくなる事があると人が増えると思います。			
							・ロックフェスをしてほしい。〔高水敷でのイベント（ロックフェス）を実施することで、にぎわいを創出、騒音に配慮し右岸での実施）		●	
◆荒川の自然・風景を楽しみながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ） ◆スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間 ◆市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間	・地域交流・健康づくり、スポーツイベントの開催		・地域交流・健康づくり、スポーツイベントの開催 ・イベント利用時の支援の仕組み	○		○	・自転車関連イベントの誘致による集客	●		
							・労力がかかる部分を支援してもらえる仕組みが必要			
							・イベント企画は、既存の地域団体の活動と連携すると良い			
							・ラグビー場（有料）は、ラグビー場としての価値を保つ観点から一般利用は難しい。			
							・無料の自由広場については可能性として考えられる。			
							・イベント時の音響による住環境への影響への懸念			
							・まちとの一体的な整備とのことですが周辺の住環境には十分な配慮をして欲しいです			
							・犬のアジリティ大会			
							・マルシェ[〔6月ごろに仲間内でマルシェをやりたいと話していた。イベントが開催しやすい計画としてほしい]			
							・周辺を保ちながらモラル・ルールづくり			
							・駅から土手は住宅街であり、静かな環境であるので、賑わう事による悪化を不安に思う。			
							・河川敷のグラウンドは利用スポーツ団体のヒアリングが必要〔・現状土手沿いに駐車しており、ボールがぶつかったときにどうするか]			
							・グランド利用者が使いにくくならないように			
							・文化的な（コンサート利用）利用も配慮されたい。（機材の管理も含めて）			
	・運動やアウトドアを楽しむサービスの充実	いきいき広場	・木陰の充実 ・木陰を活かした公園機能を充実する公共サービスの提供（チェア、ハンモック、ターフ・運動具等の貸出サービス） ・飲食を提供するキッチンカーの誘致と必要設備の整備とスペースの確保）	○		○	・河川敷地内の高木の木陰を活かした涼める場所を作ったらどうか。	●	● 新市民体育館との連携（民間サービス）	
							・大木があり日影が多いので整備（いきいき広場）〔・整備したらもっと使える]			
							・開発した時ハクビシンやタヌキが住宅街に来ないか　[・ハクビシンやたぬきが町の中に入ってくるので、　木を切らずに生息場所を残してほしい]			
	・民間占用による公園機能の充実拡大		・公園機能を充実する民間占用の誘致（例. バーベキュー場）	○		○	・有料バーベキュー場ができると市民に喜ばれると思う。	●		
							・手軽なアウトドアが楽しめる施設があると良い			
							・バーベキューのニーズは非常に大きく、問い合わせも多い。			
							・近隣の方が納得できるルールに準じたバーベキュー利用ができると良い。			
							・バーベキュー場や花火ができる場所があると良い。しかし、制限が厳しいと利用しずらいため、エリアとして利用可能範囲を区画すると良いと思う。			
							・バーベキューを可能とする場合には施設管理者及び消防関係者によるルール決めが必要である。			
							・バーベキューを許可するのであれば、騒音やゴミのポイ捨てが懸念されるため、BBQのルール決めを行い、行政で管理する必要がある。			
							・バーベキュー場の設置はゴミの問題が懸念される。過去にコアジサシの巣が破壊されることもあった。			
							・バーベキュー場を作ってほしい〔市街からも人が集まる様な整備（堤内に管理所）〕〔・嵐山のバーベキュー場は、管理者の管理のもと運営されている。トイレもある。〕〔・バーベキュー場にキャンプ場も併設されていると、人が集まるのではないか。〕 〔・バーベキューの洗い物は土手の外でやるなど、管理者の指示のもと、川を汚さないように、手く運営されている。〕			
	・「駅」と「かわ」、「かわ」と「まち」の移動を安全、　快適、楽しむアクセス環境の整備	周辺道路	・自動車交通量の増加や駐車需要の増加に対応した**周辺道路の交通環境の整備**（道路・駐車場）		○		・車の流れ、イベント開催時の渋滞対策	○ 動線検討まで	● 駅南まちづくりや、新市民体育館との連携事項	
			・熊谷駅南口から新市民体育館前を通り、**荒川にアクセスする歩行者動線の整備**（人中心のウォーカブルな空間整備、シェアモビリティ、楽しむ移動）	○	○	○	・荒川公園から河川敷まで連続した賑わいを創りたい	○ 動線検討まで	● 駅南まちづくりや、新市民体育館との連携事項	
							・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要(該当箇所：d)			
							・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要(該当箇所：c)			
							・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）(該当箇所：c)			
							・荒川公園周辺再整備計画との連携の具体策がほしい。			
							・市民体育館周辺整備との関わり方連携等。			
							・南口の開発、体育館の建設と一体となってまちづくりを進めることで利便性が増す。連携が必要。			
							・人の流れ。駅から河川敷地までのルート検討。			
							・駅⇔体育館⇔かわまち　この構想（一体として）を期待したい（再掲）			
							・熊谷駅南口から体育館荒川公園と共ににぎわい創出を考えかわまちに対して、歩道整備をしてほしい（再掲）			
							・エリア明確化（荒川公園南口整備との区分）〔3つの計画の横の連携〕（再掲）			
							・周辺とのアクセスを確保して欲しい[南からも北からも動線が確保されていないため、人が集まりづらい]			
							・他プロジェクトとの連携によるまちづくり体系、作戦　[・さいたま新都心の様に駅前、再開発と合わせた整備（他のプロジェクト）を参考にした整備を。]			
							・駅から堤までペデストリアンデッキでつなぐ			
			・村岡緑地との連携			○	・村岡緑地橋かけて往来できる様　散歩コースとして		●	
			・旧熊谷提や中山道の歴史を活かした、**「かわ」と「まち」を繋ぐ動線整備**（バリアフリー・見どころ）				・サイクリングやスポーツ利用の人をまちに呼び込むことはとても難しい。		●	

堤防・河川空間利活用の方向性：自然環境保全・環境学習ゾーン・水辺の憩いゾーンの必要機能と整備メニューの検討

凡例　○：意見の有無

役割	取組内容	場所	必要な整備・施設（案）	関係者ヒアリング	協議会	ワークショップ	意見概要	今年度検討項目	次年度以降の検討項目	課題が多く困難な項目
◆身近な自然の保全・生物多様性を高める空間	・荒川中流域の自然環境の特性を踏まえた、生物多様性を高める空間整備、維持管理活動の充実	水辺、緑地	・荒川河川敷の保全と利用のあり方に準じる（自然環境20%維持） ・多自然川づくり（護岸の覆土、捨て石、かご工）	○	○		・当計画箇所は「河川敷エコ利用ゾーン」であり、自然環境が20%維持する計画となっていた。	● 自然環境の状況確認		
							・希少種の有無に関わらず、生物が生息できる空間を削ることに対し慎重に検討してほしい。			
							・方針1-3自然環境、風景の具体策について荒川緑地の範囲内において「かわまちづくり事業」の一環として自然再生整備が望ましいエリアがあります。			
							・荒川緑地の下流側の坂路周辺の自然再生整備が望ましい。			
							・面的な整備等をするにあたっては、自然環境保全団体の意見を踏まえ、自然環境保全に配慮する必要			
							・水際の樹木の保全が必要（上下流の環境の連続性から重要な位置づけであり、軽視しないでほしい）。			
							・礫河原の保全が重要(「明戸サイホン～久下橋」はコアジサシの生息域として最も適した場所であり、礫河原を守ってほしいという要望を30年以上前に発信している。)			
◆地域の自然環境学習を充実する空間 ◆将来の環境を守り育て入る担い手づくり	・自然環境の保全に配慮し、子供たちが安心して自然と触れ合える水辺空間の整備 ・自然学習イベントの開催（生き物調査、水質調査等） ・地域の環境保全活動の開催（荒川の清掃等）	水辺	・本流と分離した**浅瀬やワンドの整備** ・自然環境の保全に配慮した必要最小限度の踏み分け程度の水辺への散策路	○	○	○	・学童の自然学習・体験の場の保全	● 既存の自然を活かす取組		
							・河原の石に関する自然学習で埼玉県立博物館との連携がとれるのではないか。			
							・荒川の水辺の自然を活かした学校連携の可能性（国の水生生物調査、水辺の楽校）			
							・自然環境を学ぶという点において手軽に安全に学べるポイントが少ないので整備が必要と考えます。			
							・暑い夏場に子供が川で水遊びできる環境、魚を捕まえる等の自然との触れ合いが出来る環境を整備して欲しい。			
							・ダッシュ　河川　漁取り			
◆地域防災力を高める地域活動を支援する空間	・地域の防災活動を行うための環境整備など（防災訓練、防災教育（災害リスクや過去の洪水、治水の歴史、流域治水に関する情報発信）、川の安全体験教室）			○			・河川の危険性を理解する場として活用できると良い（再掲）	●		
◆荒川の水辺を眺め・やすらぎや涼を感じられる憩いの空間 ◆安全性や環境配慮に留意したアウトドアや健康づくりを楽しむ空間	・水辺の眺望や夏場の涼を楽しむ水際の環境整備 ・水辺のアウトドア（釣り・SUP等）の環境の整備（アクセス等） ・水辺のアウトドア（釣り・SUP等）の環境の整備（アクセス等）	K辺・低水護岸	・水辺への安全な**アプローチの整備（階段式護岸・スロープ等）** ・治水、環境、安全性に配慮した**親水護岸や水辺の散策路の整備**	○	○	○	・川遊び　〔・親水の場所が欲しい〕	● 自然環境の状況確認		
							・夏に涼める水辺空間や、釣りなどを楽しむ場所にする等、夏も冬も（体が不自由な人を含め）市民が集まる場所になると良い			
							・河原沿いを歩ける転落防止にも配慮した遊歩道があると良い			
							・木かげのある遊歩道・河側の木陰が足りない			
							・川とふれあう遊歩道をこのエリア約100Mの緑地に作る (川が見えない。河川沿いに親水空間がほしい、全区間で作ると危ないので100mだけでも川を感じられる親水空間（遊歩道）ができると良い。)			
							・親水広場が欲しいです。[遊びの要素がない。河川とふれ合う空間。ウォーキングできる場所があると良い・レジャーできる様な水辺空間がほしい（カヌー等） ・子供が遊べる場所がほしい]			
							・子育て世代が遊べる広場（特に公園）[子供がふれあえる親水スペースを整備してほしい、子育てしている世帯を考慮し、子供と触れ合える 親水公園のようなスペースがあると良い。　今の荒川は川の流れが速く遊べない。]（再掲）			
							・親水施設整備の検討にあたり、荒川の河川特性（水辺の安全性）を踏まえる必要、利用者の十分な安全対策が重要である			
							・川が護岸に迫っているところは人が近づくのは危険であり、現状をどうするか検討する必要がある。			
							・水辺の魅力の充実。例：釣り・涼			
							・飯能河原のような本流から引き込んだ浅瀬で親水ができるか			
							・小川町の？？川のようにフィッシングスポットが考えられないか？			
							・カヌーカヤック		● 民間連携メニュー	
							・手こぎボートが週末だけでも出たらいいな（荒川大橋下流は流れがゆるやかなので）			

堤防・河川空間利活用の方向性：自然環境保全・環境学習ゾーン・水辺の憩いゾーンの必要機能と整備メニューの検討

凡例　○：意見の有無

役割	取組内容	場所	必要な整備・施設（案）	関係者ヒアリング	協議会	ワークショップ	意見概要	今年度検討項目	次年度以降の検討項目	課題が多く困難な項目
◆熊谷らしさや人とのつながりを大切にする空間づくりにより、熊谷市への愛着と誇りを育む空間 ◆過去の水害の歴史や、治水遺産を学び、災害を自分事化する空間	・計画地周辺の中山道等の歴史文化の見どころを繋ぎ、「かわ」と「まち」を繋ぐ回遊ルートの整備 ・SNSを用いた「かわ」と「まち」をつなぐ情報発信 ・歴史体験イベントの開催 例. 村岡の渡しや久下の渡し地域の原風景に思いを馳せるイベントや、旧中山道沿いの史跡をめぐるスタンプラリーイベントの開催	堤内地（熊谷駅周辺）	・熊谷桜堤の保全、継承	○		○	・熊谷桜堤は桜百選に指定されており、最新技術を駆使し必ず残してほしい。（再掲） ・桜並木は熊谷の大切な財産であり、（その保全）に配慮した計画づくりとしてほしい。（再掲） ・堤防天端に施設を設ける等した場合、桜堤の景観が損なわれるため、桜堤に影響するような整備は反対である。（再掲） ・桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。（再掲） ・桜並木をこわさないでほしい（再掲） ・カフェなど作って桜を切らない（再掲）	●		
			・旧熊谷提や中山道の歴史を活かした、「かわ」と「まち」を繋ぐ動線計画 ・旧熊谷提や中山道の歴史を活かした、「かわ」と「まち」を繋ぐ動線整備（バリアフリー・見どころ） ・回遊ルートの位置、周辺の見どころを解説する案内看板、フットサインの整備（桜堤、旧熊谷堤など） ・荒川の現風景に想いを馳せる新たな休憩拠点の整備（新市民体育館との連携、浮世絵に描かれる往時のみかりやの賑わいなど）	○	○	○	・熊谷の荒川ならではの魅力の創出が重要 ・オンリーワン、ナンバーワンとしての魅力づくり ・荒川に水車があったのをはじめて知りました。復活したらたのしそうです。 ・北本市高尾地区のかわまちづくり水辺公園、舟運を模した水路をこどもたちの水あそび場にしている（参考まで）。 ・歴史に関する魅力の発信。動線はどのようになっているか。 ・荒川公園から河川敷まで連続した賑わいを創りたい（再掲） ・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要（再掲） ・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要（再掲） ・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）（再掲） ・人の流れ。駅から河川敷地までのルート検討。（再掲） ・駅⇔体育館⇔かわまち　この構想（一体として）を期待したい（再掲） ・熊谷らしさの４点は、理想であり荒川河川には求めるのは困難と感じる ・整備方針1-1　熊谷らしさ、つながり河川敷内で作れるものに制限がある。	●		
	・治水の歴史を学習・体験するイベントの開催（荒川の西遷、旧熊谷堤・石祠（水運の安全祈願）） ・流域治水（上下流の自治体連携）を学習・体験するイベント　の開催	自由広場等のオープンスペース	・過去の水害の歴史や、治水遺産を解説する案内看板の設置等	○			・河川の危険性を理解する場として活用できると良い（再掲）	●		

その他意見

■第１回かわまちづくり協議会

項目分類		委員記述
質問	スケジュール感	かわまちづくりの計画作成から整備着工、供用開始までの全体スケジュール感を教えてくださ
		期間は何時頃かかるのか。
		体育館の案件もあるので想定が難しいと思いますが何年ぐらいかけてまちづくりを進めていくのでしょうか。
		計画の策定期限等はあるのか。
	優先順位	取り組みたいことの優先順位は？
	ワークショップの対策年齢	ワークショップの対象年齢の範囲はどうなっていますか？
	どうしたいのか？	もっと簡単に具体的にどうしたいのか。
	利用者増の想定？	現状の方針が実現した場合、現在と比べて（どのような範囲、世代、目的など）今は利用していない（できない）利用者が増えると想定できるでしょうか。
方針	魅力づくり	時間軸として、魅力を積極的につなげているかというチェックはされているか。
	連携の視点	現状である程度は魅力として存在するものとこの取り組みで「創生」されるものが区別できると良い。
	参考事例	参考事例はわかりやすい。ここに熊谷の強みとニーズをのせていきたい。
範囲	住宅街範囲？	住宅街を範囲に含めた理由は？
		対象エリアの所有又は管理者は？
		駅から歩いて（体育館周辺）いける範囲を設定すると定住促進につながるのでは。
	段階的整備	将来活用エリアはどのくらいの先の将来を見すえているのか。
		段階整備としてのエリア拡大。
	範囲の視点	範囲は、提外地では「荒川緑地」全体提内地では「荒川公園」・「体育館」のエリアは最低限加えるべきと思います。
自由意見	施設整備	現状の利用状況は？
	計画の進め方	先を見通しベストの絵を持って段階的計画を。
		市内で進めている道の駅や体育館立て替事業の共通イメージはありますか？熊谷市のブランディングは。
		これから熊谷で育っていく子供たちのニーズも収集していくとよいのでは。

■第１回かわまちづくりワークショップ

項目分類	参加者意見	発言記録
活用アイデアの意見	–	・範囲が広いのではないか→一部から整備
		〔・利用者に今のままで良いか、駐車場や運動広場をどのように変えてほしいかヒアリングしたらどうか〕
	シェルター　（９か所）	・命を守ることが大切→シェルターの設置（学校・公園）
	バス停	–
	立正大学との連携。まちなか	–
範囲・活用アイデアの懸念意見	荒川公園の木を切らない	–
	慰霊塔をどうするのか？	慰霊塔の移設はどうするのか
	体育館の立てかえ、荒川公園の木などがなくなってしまうのは嫌です	・毎日、荒川堤防を散歩している。体育館立替で、公園環境が変わるのは心配 ・いちょう木（荒川公園）を守ってほしい体育館改築で、壊れることは心配。

事例No.1 （子育てを楽しむ、健康づくりを楽しむ）

聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり


①移動遊具


②休憩スペース


③絵本読み聞かせ


④ヨガ


⑤マルシェ

（写真出典:「多摩市」ホームページ）

目的	自然空間と都市空間が調和した環境にやさしいまちづくりの一環として、 多摩川の河川空間を整備し、「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり」の取り組みを通じて、 聖蹟桜ヶ丘の街における居心地の良い水辺づくりの推進 （川のある豊かな日常を実現し、駅周辺を含む聖蹟桜ヶ丘のまちの魅力向上）
名称	せいせきカワマチ誕生イベント みんなで体感！かわまちびらき
主体	多摩市、聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会
場所	東京都多摩市　多摩川河川敷　京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」最寄り
河川名	多摩川
期間	2023年10月14日（土）、2023年10月15日（日）　※15日は雨天のため中止 10：00～16：00
イベント内容	・移動遊具（トランポリン、吊り橋、縄跳び、トンネル、鉄棒）① ・休憩スペース（チェア、タープ、フラクタル日よけ）（㈱ロスフィー）② ・絵本読み聞かせ ③ ・リラックス＆リストラティブヨガ ④ ・マルシェ（多摩中学校がつくるはちみつを使用した地元飲食店のオリジナル料理の販売、ラスカルお菓子の販売、地元飲食店）⑤ ・バームクーヘンづくり体験（ボーイスカウト多摩３団） ・あらいぐまラスカルグリーティング（写真撮影会） ・アスレチック体験（つり橋）（ボーイスカウト多摩3団）、 ・卓上のインクルーシブ玩具（TOKKEN） ・スラックライン体験 ・キッチンカー出店 ・パトラッシュ基金企画(盲導犬の仕事の実演、盲導犬とのふれあい、募金活動） ・子供文庫、野菜市（３丁目の家　by くべーる会）
イベント内容 （街との連携）	・クイズラリー「ぶらり謎解きまち歩き」も同時開催（10/7～11/5） （日本アニメーション株式会社　本社スタジオが多摩市にあり）
検証項目	・持続可能なコンテンツの検証 ・タープや椅子等の備品貸し出し方法の検証 ・コンテンツの企画・運営をする仲間作り（公募） ・上記項目を通じた河川敷エリアの使い方のルール作り

事例No.2（水辺を楽しむ、水辺のアクティビティを楽しむ、スポーツを楽しむ）

乙川リバーフロント地区かわまちづくり


①SUP体験


②岡崎城下舟あそび


③飲食スタンド


④くつろぎ空間


⑤お掃除イベント

（写真出典：「岡崎市観光協会」、「ONE RIVER」（NPO法人岡崎まち育てセンター）、「国土交通省中部地方整備局」ホームページ）

目的	国のかわまちづくり支援制度を活用し、都市空間と水辺空間の一体的整備、 回遊 性の確保に取り組み、観光拠点となるにぎわいの場の創出を図ります。
名称	おとがワ！ンダーランド
主体	岡崎市、乙川リバーフロント推進課
場所	愛知県岡崎市　乙川河川敷　名鉄名古屋本線「東岡崎駅」最寄り
河川名	乙川
期間	2017年10月28日（土）、2024年7月7日（日） 10：00～21：00
イベント内容	・SUP体験 ① ・岡崎城下舟あそび（岡崎に伝わる民謡「岡崎五万石」かつて、岡崎市の西を流れる矢作川を船で行き来していた船頭たちが舟歌として歌い始めたというお話を受け継いで、運航しています。特に、ここ岡崎城は、徳川家康公が生まれた場所。江戸時代のころは特別な場所として扱われていました。現代でもその歴史を感じながら、一緒に楽しんでみませんか。） ② ・飲食スタンド「殿橋テラス」 ③ ・ドーム型テントや階段芝生広場によるくつろぎ空間　④ ・自転車、スケートボート等による複合スポーツイベント ・「堤内テラス」のお披露目 ・ナイトマーケット ・星空観察
イベント内容 （街との連携）	・お掃除革命～乙川から籠田公園へ～ ⑤ ・Meguru Quruwaスタンプラリー

事例No.3（スポーツを楽しむ、自然あそびを楽しむ）

犀川かわまちづくり


①ヨガ


②休憩スペース


③こどもワークショップ


④こどもワークショップ


⑤桜並木ライトアップ

（写真出典：「国土交通省」、「金沢市」ホームページ）

目的	金沢市では、伝統的な町並み、寺社風景などの「保全」と近代的都市機能の「開発」との調和を 図る、本市固有のまちづくりを進めており、水と緑に彩られた風情と趣のある川筋景観の保全を推進するとともに、犀川周辺の公共空間を活用した中心市街地の新たな賑わいの創出に取り組んでいます。 この取組を充実させるため、本計画では、犀川の河川空間及び隣接する中心市街を一体的に整備し、風情と趣のある川筋景観を創出するとともに、イベント開催など民間事業者等の活力を生かした日常的な利活用を促進することで、犀川の新たな魅力や賑わいの創出を図ります。
名称	SAIGAWA Riverside ACT
主体	金沢市、犀川利活用推進協議会
場所	石川県金沢市　犀川河川敷（犀川大橋－桜橋間） ＪＲ金沢駅から北鉄バス「片町」「片町」最寄り
河川名	犀川
期間	2024年7月6日（土）、2024年7月7日（日） 10：00～16：00
イベント内容	・ジョギング＆バレトン＆ヨガ（Beach　and Forest）① ・休憩スペース　② ・こどもワークショップ（いしころあそび、ロックバランシング、苔玉をつくろう！）（こころ移動自然あそび隊）③④ ・アウトドア体験のワークショップ（アウトドア基礎知識、アウトドア料理）（百年珈琲） ・桜並木ライトアップ　⑤ ・キッチンカーマルシェ ・七夕企画（七夕飾りの設置、キッチンカー）（ほくりくキッチンカー協会） ・遊び道具等の無料貸し出（アウトドア用チェア、テーブル、椅子、モルック、ペタン　ク、わなげ、ストラックアウト
イベント内容（街との連携）	・犀川大橋百寿祭（浅野川大橋・犀川大橋百樹会）

事例No.4（自然を楽しむ、キャンプを楽しむ、防災を学ぶ）

板橋区かわまちづくり


①自然学習


②自然学習


③テント設営体験


④焚火サイト


⑤はたらく車と記念撮影、体験

（写真出典:「板橋区観光協会」ホームページ）

目的	古くから培われた地域の歴史や文化、区民生活とのつながりなど、荒川河川敷にはその地域特有の資源が眠っています。また、水辺はその使い方によって新たな価値を生み出す大きな可能性を秘めています。板橋区かわまちづくり計画では、荒川河川敷が区民に愛され、そして「誇り」となるとともに、多くの区民が集い、「にぎわい創出」につながる水辺空間の形成を目指します。 また、板橋区はこの取組に防災の視点を採用し、「災害に強い首都『東京』 形成ビジョン」のモデル地区に指定された舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした整備も行います。
名称	RiverSide Festival ARAKAWA
主体	板橋区、板橋区観光協会
場所	東京都板橋区　荒川戸田橋緑地 JR埼京線「浮間舟渡駅」、都営三田線「蓮根駅」最寄り
河川名	荒川
期間	2023年3月25日（土）　11：00～17：00 2023年3月26日（日）　10：00～16：00
イベント内容	・自然学習（春の蝶を探しに行こう） ① ・自然学習（春の草花を探しに行こう） ② ・まき割り・火起こし体験　③ ・テント設営体験　④ ・災害対策のはたらく車と記念撮影、放水消火体験、体験試乗　⑤ ・どうぶつえん ・焚火サイト ・たこ揚げ大会 ・スライム作りワークショップ ・ベーゴマ体験、販売 ・災害対策支援船「あらかわ号」お花見クルーズ ・防災教室、ワークショップ（無印良品） ・友好自治体出店コーナー（飲食屋台）（木工ワークショップ） ・ペットボトルロケット作りワークショップ ・トイドローン体験 ・気球係留フライト体験 ・あらかわアコースティック音楽祭 ・ピクニックと絵本のコーナー ・フードトラックマーケット
イベント内容（街との連携）	・区内人気店舗飲食販売

事例No.5（キャンプを楽しむ、クルーズを楽しむ）

ミズベリング淀川



①キャンプサイト（展示エリア／個人エリア）



②キャンプキッチン



③淀川クルーズ



④小型ボート操縦体験



⑤キャンピングトーク

（写真出典：「ミズベリング」ホームページ）

目的	「新しい」淀川の楽しみ方にみんなでチャレンジし、たくさんの人に淀川の魅力を知ってもらうことを目的とした社会実験、 淀川の活用にむけた第一歩“ミズベリング淀川の始まり”の取り組みです。
名称	淀川アーバンキャンプ2015
主体	淀川賑わい創出検討会（大阪商工会議所）
場所	大阪府梅田市　淀川河川公園十三野草地区 （阪急「十三」駅下車／東口より徒歩約500m）
河川名	淀川
期間	2015年9月19日（土） 10:00～20:00
イベント内容	・アーバンキャンプ　プログラム　キャンプサイト（展示エリア／個人エリア）① ・キャンプキッチン　講師：堀田裕介氏（foodscape・料理研究家）② ・水辺アクティビティ　淀川クルーズ　＜ディクルーズ＞＜ナイトクルーズ＞ 新北野緊急用船着場発着で、梅田のビル群の景観を楽しむクルーズを運航します　③ ・小型ボート操縦体験　免許を持たない初心者も小型ボート体験ができます。 運営：ヤマハ発動機(株)④ ・キャンピングトーク　行政、アウトドア事業者、デザインの3分野から専門家を招き、淀川の観光活用に向けたアイデアを聞き、ディスカッションを行います。⑤ ・キャンピング・バー ・レンタサイクル　台数：5台　料金：無料 ・超巨大メガサップボード体験　手漕ぎのパドルボードで水上散歩を楽しみます。 運営：日本シティサップ協会

事例No.6（流域にある店舗のビールを楽しむ）

川崎市かわまちづくり





①クラフトビールの販売


②キッチンカー


③休憩スペース


③休憩スペース

（写真出典：「TAMAGAWA BREWERIES ALLIANCE」ホームページ）

目的	多摩川の丸子橋周辺河川敷においては、運動やピクニック等、多くの利用者でにぎ わっています。一方で、当該地やその周辺の住宅街において、バーベキュー利用者によるゴミの不法投棄や騒音等の課題も生じていました。 こうしたことから、民間事業者による水辺のにぎわい創出などの可能性を検証し、今後の水辺活用に向けた検討の参考とするため社会実験」を実施します。
名称	SOUND＆CHAIR
主体	川崎市
場所	神奈川県川崎市　丸子橋第2広場・丸子橋ピクニック広場 東急東横線　「新丸子駅」最寄り
河川名	多摩川
期間	2022年10月8日（土）2022年10月9日（日） 11：00～18：00
イベント内容	・クラフトビールの販売　① ・キッチンカー　② ・休憩スペース（アウトドアチェア、タープ＆シェードの貸出）③

事例No.7 （歴史、景観を楽しむ）

旭川かわまちづくり











（写真出典：「おかやま旭川遊覧クルーズ」ホームページ）

目的	旭川の水辺を利用し、岡山城と後楽園を一体化する遊覧を通じて、岡山市民や岡山を訪れる観光客に、旭川の景観や川から見た街並みを楽しんでもらうとともに、旭川や岡山城・後楽園等の歴史・文化をより身近に感じてもらう。
名称	おかやま旭川遊覧クルーズ
主体	岡山市、株式会社おかやま旭川遊覧クルーズ
場所	岡山県岡山市　鶴見橋から水辺のももくん周辺 路面電車「城下」最寄り　乗降場：碧水園ボート乗り場（月見橋下流）
河川名	旭川
期間	2021年3月31日～2021年9月30日 10：00～18：00
イベント内容	・旭川遊覧クルーズ（岡山市の中心部を流れる旭川から岡山後楽園、岡山城を眺望するクルーズ。時を忘れて、悠久の歴史に漂う「まちなかリバークルーズ」）（1日8便、遊覧時間30分、ガイド付き）